

ふあ。

ド、ドオルですつ。どうもドオルですつ。こんばんは！

えへ……えへへ。なんかこう、毎日お話してますけど、久々って感じします。

うあ、初っ端から意味分かんないですねごめんさい。

うえへへ。……へ？ あ、え、あ、ああ……、は、はい、僕も、僕も。

す、す、……う。ふあああ。言えませんか？

恥ずかしいです！……えええ？聞きたい……の？

うううう。こんな前置きされちゃうと、言えるものも言えないですよつ。

だったら、その、あれです。

耳、耳だけ！澄ましてくださいませぬか。お願いでござる……ござるよ……。

拙者、「面と向かってそういう事言うの、恥ずかしいすぎるザムライ」でござる。

だから、お願いします……。

ん……。い、いいですか。いきますよ……。……すうきい。

ひえああああ。おああああ。生き恥！逃げ恥！晒し首！

死にたい！死にすぎて死んじゃう！アアッ！殺してッ。

もう殺してッ！貴方に殺されたなら、僕は極楽浄土へスカイハイできます！

……。……うああダメだ。どうして、どうして。

今日こそは貴方とふつうにお話ししようって心に決めて、

でも、いざ貴方の顔を見ちゃうと、もうダメ……。

心が浮いちゃって、浮き過ぎちゃってですね、

元々ない語彙力がマイナス445くらいになるんです。成長を知らないんです。

……よし。決意します。今なら目の前に貴方がいるから、固い決意ですよ。

ハード……データミネーション。あつ、わ、笑わないでください！

これでも真剣なんですよ。シンのケンと書いてマジですよ。大マジです！

……。

うええ！？ひ、ひどいッ。僕の言葉、全部そんな風に思われてるの……！？

うぐぐぐ……！いくら貴方でもつ、その発言はですねエッ……！

あつ、な、なんですかその反応は！

……あら、前にもやりましたっけ、このやり取り。

えへへ。同じ手は通用しませんか。

はい、怒ってません。ていうか逆です。楽しいです。楽しすぎます。

僕がこんなに楽しいなんて、

古今東西、風林火山、後にも先にも貴方とお話する時だけですよ。

なんか……だんだん貴方、僕の事に詳しくなってますね。

ドオル・ドキュメントは貴方です。……あ、何言ってるの僕、意味不明。

そろそろ意味不明は卒業したいですね。「旅立ちの何とか」でも歌いましょうか。

……あれ？どしたんですか、その顔。……ええ？ええと……、

なんか、狭い階段に生死不明のセミがひっくり返ってるときみたいな。

そんな顔です。

あつ、も、もしかして僕、セミなんですか……！？

アブラですか？アブラなんですか！？うるさいですか！？

ひえ。違うの……？じゃあその、まさか、うう、ツクツクボウシとか……？

ああすみませつ、季節外れすぎますよね、はは。僕の部屋いつでも常夏とこなつなので。

僕がハッスルして発する熱がですね、凄まじいんですよ。

……今の笑うところです。僕を辱はづかしめるつもりですか。別にいいですけど。

……え、え？どうしたんですか本当。

僕、何か……やらかしました？やらかしすぎちゃいました？うああ――

ご、ごめつなさつ、すみませんでした！捨てないで、お願い！

捨てないでください。貴方にポイポイされたら僕、土に還るしか……！

……あ、は、はい、クール。クールになります。ドオル、クウル……。

すう。はあ。はい、大丈夫です。最近、立ち直り早いです。

では改めて……。ええと、どうしたんですか？

……うん。あい、たい。会いたい？なるほど！そりゃ良いですね。

貴方と会って、お話して……。……ッ……！？！

いやいやいやいやいやいやいやハッピーニューいやー！！！！

……はあ？ 確かにクールになるとは言いましたがね、

限度ってもんがありますよ！ 一瞬で限界突破しましたよ！

まあまったく何言い出してんですか！ 会うつてそれ、あれですよねオフ会！？

僕とオフ会！？ ゼロ人ですよゼロ人、誰も来ませんよマジで！

どおあ、おあああああああッ！

ひっひっふー！ ひっひっふー！

どどどどうしよう、えっどうしよう！ エッ無理、ほんと無理！

どあ、だって、会うつて事は、目の前に貴方がいて、それで、

でっででででえええええとおおおう！？ するって事……ですよね！？

貴方と……？ 手とか、つないだり……？ して……？ それで……？

おぶアアッーアッすみません、鼻血が……！！ 鼻血がやばい……！！

だッ大丈夫、れすっ。いや大丈夫じゃないこの出血量はやばい……！！

ティッシュどこ！ あった！

……ウオ、ウウウウ。

これほんとやばくない？ 僕しぬ？ 失血死？ オアアア。

ちよッちよッと待ってて、ごめん――

………。

………。

お待たせしました……。お、お見苦しいところを見せて……ははは。

洗面所が殺人現場みたいになっちゃいましたけど、何とか……。

誰もいなくてよかった……。ええ、もう平気です。

たぶん体内の血、出しきっちゃいましたから。あはは、僕もう死体です。

そのうち腐乱していきます。腐乱ドオルです。

ああつ、はい。あーとえーとその、オフ会……は、ですな。

うん、ちよつと、考えさせてください……。……勇気が……出ません。

すぐにお返事できないの申し訳ないんですけど。

えっやつ、貴方が謝る必要は……、僕が、僕が悪いんですよ。

勇気ゼロだし……進歩ゼロだし……胸もゼロだし……。永遠のゼロ……。

ってなに笑ってんですか！ むっきー！ 怒りますよ！

……あつ、うそうそうそ。怒りません。キレてないっスよ。

僕キレさせたら大したもんスよ。ええ。

むう。でもほんと申し訳ないです。

せっかく貴方からお誘いしてくれたのに。こんなチャンスなのに。

あ……というか、貴方も僕も、住所はSNSに載せてないですよ。

どうします？ 貴方が北海道で僕が沖縄だったら……。

ひよつとしたら異国の可能性も、なきにしもあらず。

いや日本に住んでますけど。

でも。それでも、会います……？

……ヴえ。そ、そう、ですか。うう……今世紀最大級に嬉しみです……。

……、……なるだけ前向きに検討します。本気です。

いつか貴方が前進する力をくれたから……だから、頑張ります。

……もうちよつとだけ、待ってて？

## 随筆

こんばんは。……ふふふ。

どうですか。今日はカメラの位置を変えてみました。部屋の中、見えます？

かんっべきなアングルでしょう？ ドヤア。

え、あ、ふふふ、布で隠してるところはですね、ええとですね。

こほん……。僕、最近あるものにハマってるんです。知りたいですか？

興味持ってくれますか？ 僕なんかに？ 物好きさんですねえ、ふふふ。

どうしよっかなあ。見せちゃおっかなあ。

って！ 見るる前提でカメラセットしたんでしょ！ 僕ってばバカ！ もう！

……へ？ なに言ってるんですかあ、いつものテンションじゃないですかあ。

あ、すみません引つ張りすぎてウザいですよね。存在そのものも。

いまお見せします。……ばーん！ プシュウドカアン！

ドヤア。ドヤア。しょ、どう。書道！ カリグラフィーです！

お習字……これぞ日本人の嗜み。

そして、僕のフィロソフィーを直球表現する方法なのですよ。ふふん。書きます。気合入れて書きます。ふふふ。

「ぼっち書道大会」をお見せする為に、準備は万端なのです。ぬかりなし。書きます。まずは試し書き。

……ふんッ！ とあッ。ひよう！ ……ぐふふふふ。

どうです。どうです！ かっこいいでしょ。それっぽいでしょ。

じゃじゃーん！ どう？ どうこれ？ 殺戮さつりくって書きました。読める？

……えへへ。ありがとうございます……って、どうして若干引き顔なんですか。僕の顔、キモいですか……？ ヲう……ずびばせん……ギモぐで……。

ひよあッ。ち、違うの？ え、あ、文字……？ あ、ああ……そっちですか。

すみません、試し書きだから……本命じゃないから、適当にと思ったけど、これくらいしか思いつかなくて……。あはは……。

つ、次こそ！ 本命ですからね、血液塗りたくる勢いで書きますよ。いざ……！

……ふんッ！ うりゃあッ！ ハッ！ ホッ！ カキカキ……、……ふう。

…………えっと、ああ、内容も勢いで書きちゃったけど、……見ます……？

うひい。だめだめだめだめ、ハズカシ！ こんな、こんな……。

あ、はい、見せます。でも……あんまりじっくり見ないでね？

す、きい。好きい。…………う、う、熱い、顔が爆弾になったみたい――

……あれ？ あ、貴方も……顔、赤くないですか？ 大丈夫ですか。

アツまままさかその色は……僕への怒り！？ おこマークですか！？

ひいッ。ごめんなさッ……調子乗ってごめんなさいい！ マジすみません！

えっ、そ、そうなんです？ そのレッドサインは……、あ、うあ。うああ。

………照れてるの？

そ、そっか、そうですか。あは。あははは。……う。

ど、どうしましょ、あはは、何ですかねこの空気。うへ……。

赤色というより、ピンク色……ですかね。やだ、なに言ってるんだる僕……。

……へ？ なに？ どうしたの？ 顔……？ が、どうしました？

ふえ。あつうあああつ！ か、顔に墨が……！！？ ひゃああああ。

なんでもっと早く言ってくれないんですか！ 恥ずかしいじゃないですか！

ふあ。ふあああ。ちょッ、可愛くない！ 可愛くあろうはずがないです！

やめてくださいー！ や、やめろー！

ピーッ！ それ以上はッ僕が許しませんよ！ 怒ります！

こらこらこらこら！ 僕をからかうのはやめなさい！

……その言葉は僕にとっちゃ甘い蜜ですけど、毒でもあるんですからッ。

幸せだけど、死にたい！ 矛盾！ ホコ、タテ！ です！

んもう、貴方ったら最近アレですよ、アレ！

……アレはアレです。アレなんです。追求しないでくださいッ。

ッあえていうか顔を拭くの忘れてた！ ティッシュティッシュ……。

ああ空っぽだア。そうだ昨日鼻血を……。ああ……僕はダメだ……。

ティッシュ箱にも嫌われてるんだ……ああ……。

……ハッ。そ、そうですね。前向きになるって決めたもん。

何事もポジティブに考えなきゃ。ええとええと、ううん、

そうだ、僕がティッシュになれればいいんだ（？）。

となれば、この顔の墨も付きっぱなしで良いって事で。解・決。フッフ。

コットンドオル50枚入りです。貴方も使います？ 無料ですよ。

僕の事、ティッシュとして使ってくださいな。貴方なら嬉しいです。

え……何かご不満が？

ぼ、僕なんか……ティッシュとしての価値もないって事……？ ひい……。

え、あ、顔？ あ……ああ、はい、洗ってきます。ありがとうございます。

洗ってしまえば済む話を僕はダラダラと……スミマセン……。

……ふえ。……面白いって言ってくれるの、貴方だけです。えへへ……。

はいっ。きれいさっぱりになって戻ってくるので、また後で！

### 3 師弟

師匠……。

あつ急にごめんなさい、いえあの、ほら、いつだったか僕、話したじゃないですか。

貴方はコミュニケーションが上手……みたいな。覚えてますか？僕も、僕ももっと対人との会話を出来るようにしなきゃって思ってたので、ご迷惑じゃなければ……その、貴方の弟子になって、修行させていただきたく思います……。

え？ ……もう、ほんと貴方は慎ましいというか自己評価が低いというか、ダメですよ？ もっと自分に自信を持たないと。めっ。

……ええ？ だってほら僕はゴミですし。

能力のあるひとはそれを誇ってもいいんですよ。プライドですプライド。

僕は無能力なので誇っちゃダメ。

なので。これから貴方……いや、師匠！

師匠のもと研鑽<sup>けんさん</sup>を重ねて、コミュニケーションスキルアップに努めたいッス！

よろしくおねがいしヤス！ ……です。い、いいですか……？

……あは♪ ありがとう。いや、ありがとうッス！

師匠はいつも僕……私の無茶ぶりに応えてくれて、マジ嬉しいッス。

え？ ああ、私、いつも……というか最近、ずっと思ってたんスよね。

どして一人称が「僕」で定着したのかわたて。マジで。

いやこれ小さい頃からの癖だったんス。違和感まったくないんスけど。

んんと、今思ってみれば、たぶん、

女の子としての自信がなさすぎて、周りの子が使う「私」つてのを、

真似できなかったんだと思うんでござす……あ、これじゃ西郷さんだ。

なので今日は「私」でいきまッス。よろしくおなしヤス！

ふふ♪ 師匠、ノリが良くて嬉しいッス。私、マジがんばるッスよ。

よし、まずはコミュニケーションの基本を教えてくださいッス。

……目？ 見て……ふんふん、なるほどッス。目ッスね……。

私、初めて師匠とお話した時、言った気がするッス。

顔を正面から見るの苦手なんスよ……。実はそれも今も変わらなくて……、

……師匠の顔、やっぱり苦手ッス。

ああッ！ ちがッ、そういう、意味じゃ！ ごめんなさいごめんなさいッ、好きですッ大好きですッ！

見るのが苦手なだけで！ 僕ほんと貴方の顔世界で宇宙一、一番好きですから！……ひあああなんかめっちゃ恥ずかしい事言っちゃった……。

でも！ ガチマジのマジガチですんで！ 嘘偽りなく真実の中の真実です！

何なら真実の口に頭から突っ込んでやりますよッ。

もし頭噛み砕かれたら、僕の死体蹴り飛ばして東京湾に捨てていいですから！

……う、な、なんか、ヒートアップしちゃって……すみません……

あ、すみませんッス。また部屋の中がムシムシしてきましたッス。私の熱で。

真剣に取り組むッス。だって、私も師匠みたいになりたいんス……。

笑顔が素敵で、相手にやさしく、……そんな素敵なひとに。

ね。貴方が師匠なら……きつと私、なれるッスよね？

私みたいな凡人以下のクズでも……、……ね？

……はい♪ 師匠の言葉、骨身に沁みて……活力の源ッス。源頼朝ッス。

よオオし。やる気湧いてきた。引き続きオナシヤス！

そもそも私、よくこれでこれまで生きてこれたなって思うッス。

でもこのままじゃ将来、就活で面接したって全落ち確定ッスもん。

それだけはマジ勘弁ッス……。パママのスネカジリだけはしたくないッス……。

ううん、と言っても私、人生設計とかプランとか考えた事なくて。

何となく生きてるせいとか、時々すっごく不安になるッス……。

このままでいいのかなとか考え出して、ベッドでバタ足するだけ……みたいな。

で、眠っちゃうと全部忘れるんス。なんか、アホの子ッスね。

あの、……師匠は……卒業したら進学ッスか？ ……はい、……はい。

ええっ、そうなんスか？ 全然そんな風には……見えないッス。

いつも力強い言葉をくれるから、

なんかこう、師匠は、人生の主軸がしっかりしてる、って見てたッス。

みんな……意外と、考えてないものなんスカね……？

……、……ん、そうッスね。一朝一夕でどうこうじゃなくて、生きながら、

生きる理由とか、目標とか……だんだんできていくもの……ッスね。  
うん。うん！ また勇気もらっちゃったッス。ありがとうございます！  
……へ？ え、あ、そ、そうッスか？  
私、ちゃんとコミュニケーションできてます？ ほんと？  
そっか……♪ 師匠のおかげッスね♪  
ドオル、レベルアップ。ふふ。僕、何だか悟りを開いちゃいました。  
貴方と関わり合う事、貴方とたくさん思いを共有する事、  
うん……貴方とお話する事そのものが、僕のコミュ力上昇なんですよね。  
今さら気づくなんて、遅すぎました。でも気づけてよかったあ。  
あ、と言ってもですね、貴方が師匠である事は変わりありませんよっ。  
引き続き、ビシバシご指導ご鞭撻を……お願い致します♪

## 怪奇

ガタガタガタガタ……。ブルブルブルブル……。  
こんばんはあ……ドオルでえす……。  
突然ですが……。  
これは、本当にあった……世にも奇妙な……怖い話……です。  
とある女の子が、買い物帰り……夜道を歩いていました。  
彼女の住む町は、都会とは言えませんが、  
それなりに活気のある明るいところなのです。  
しかしその道だけは……敷<sup>やぶ</sup>に囲われ、街の灯りを遮っています。  
真っ暗……なのです。見えるものは……道の先、  
微かな住宅の電灯だけ……。  
彼女は怖いなあ、怖いなあ、と思いながらね、こつこつ、こつこつ、  
まるで世界に自分しかいないような、そんな孤独な音を響かせてえ……  
歩いていました……。

こつこつ、こつこつ……ぐしゃり。……何かを踏みました。  
「ひっ」と声を上げ、冷や汗をひとつ……。  
スマホのライトをつけ、おそろおそろ……。靴の裏を……。見ましたッ。  
なんと、なんと……。  
……犬のうんちでした。  
以上。  
というわけで、チョコケーキ買った帰りにそんな出来事がありました。  
……クウウ。犬のうんちは飼い主が責任をもって片付けてくださいッ！  
僕はそう言いたいッ！  
なんでよりによってチョコケーキ買った帰りなんですかつ、もうッ！  
このやり場のない怒りは、どこにぶつけたらいいんですかああッ。  
あ……もしかして、  
夜食の食欲に負けて、ふらふらケーキ屋さんへ赴いた罰ですかね……。ハハ。  
うううッ。  
……ん……。はい、……。ありがと。元気出します……。  
ていうかすみません汚い話をしちゃって……。  
今まで不幸な目に遭っても誰にも言えなかったから……。  
貴方なら聴いてくれるって思って、回りくどく話しちゃいました……。  
いつもいつも聴いてくれてありがとうございます。  
最初の反応、すごく素敵でした。怖い話……苦手ですか？ うふふ。  
アッ。僕は得意です。幽霊とかほんと、怖くないですから。マジで。ほんと。  
僕より色白の幽霊なんて、ワンプンでぶっ飛ばしてやりますよ。  
だから怖くないんです。怖くないです。……怖くないです！  
……怖くないって言うてるでしょ！ ちょっと、目を細めないでください！  
ちがッ、だから、僕は――  
エッう、後ろ？！ いや誰もいませんよ！ 指さしても誰もいませんよ！  
ちょッマジッ本気でやめてください振り向けませんッ。怖い怖い怖い怖い。  
苦手ですッ！ 幽霊とか苦手です怖いです無理です！ だからやめて！  
……ウウウ……。どうしてくれるんですか。それ以上いじめると漏らしますよ。

いいんですか。ただでさえ汚物なのに、汚物オブ汚物と化しますぞ旦那……。  
……ほんと？ 誰もいない？ ……よかった……。

はい……ここは、貴方と僕だけの世界ですね。アダムとイヴですね。  
あそうだ、果実はないけどケーキがあった。食べちゃいますね。

……うわ、靴洗ったりしてたから温<sup>ぬる</sup>くなっちゃった。

でもまあ、うん、僕にはこれくらいが丁度いいんだ……。

……あ、怪談と言えば、日本だと夏の風物詩ですけど、  
外国は冬らしいんですよ。

ウィンター・ストーリーって言って、皆で怖い話をするんだとか……。

ああ……なんて恐ろしいんだろう。

貴方は怖い体験とかした事ありますか？

なんかよく、ホラー番組とかで芸能人が怪談語ってますけど。

皆して怖い思いして、僕なんか一度もないですよ。いやさっきあったけど。

そういうんじゃないで、得体の知れない何かに出会っちゃったんだとか……。

未知との遭遇ってやつです。ありませんよね、あはは。

怖いですよ。会った事ないものとかひととかに会うのって。あは。あはは。

あう、うー。いえ、あの。

えと、その、実は……先日の件で……。ほら、オフ会……。……はい。

僕……決めました。貴方と……会いたい。会いたいです。直接お話したい……。

えとあの、お住まい……教えてください……。

……え、あ、え？ えええ？ びっくりした……。

あ、そ、そうなんだ。そうなんです。……まさか同じとは……。

……会えますね……うあああ。うううう。

あ、は、はい。僕自身、意外です。こんな決断するなんて思いませんでした。

でも、でもでも、頼み事やお願い事ばかりで申し訳ないし、

貴方から僕に望んでくれる事はすごく嬉しいし、純粹に……会いたいの。

いろんな気持ちに後押しというか、それが勇氣になって……それで……。

あ、そ、そんなお礼なんてしなくていいです。頭下げないでください。

あの、その、日時と場所……決めましょうか……。

## 超越

あ、も、も、もし、もしもし、ドオル、です。

あ、あ、あ、あの、今日は、今日……は……宜しくお願い……しま、す。

その、あの、ええと、あ、あ、あ……どうしよう。どうしようどうしよう。

ほんとあの、お、お手柔らかに……はい、……い、痛くしないでください。

ってなんか違う！ あ、え、あ、えとえと、あああ……。

は、はい、いつも通り……いつも通り……。すー……はー……。

少し、落ち着きました。

えと、なんか、あれですね。

いつもビデオ通話だから、ふつうの電話ってなると感覚が違うっていうか……。

あはは……。もうやばいです、緊張の次元が違いすぎて、笑いが……。

やっぱり……画面越しと……リアルとじゃ……。

え、……あ……貴方も緊張してるの……？ ほんと……？

何だか信じられないですけど、でも、貴方は嘘なんかつきませんもんね。

貴方も……緊張するんですね。……可愛い……ですね♪

ん……なに……？

そ、そっか……あはは。僕はもう、寿命分の鼓動をここで使い切りそうです。

もしくは老化現象で急死するかも……。骨はトイレに流してください……。

ってこれから会うのに不穏すぎますね、すみません……うううう。

でも喋ってないと落ち着かないです。今ほんと心臓バクバクで……。

も、僕、死にそうです。死ぬかそれとも死ぬかどっちかです。

今、どちらですか。……え、えええ！ す、すぐ近くじゃないですかッ。

うあ、うあ、やばい、やば、やばい、めっちゃ、緊張。ふあ、ああ。

え……？ え、え……？ え、もしかして、この、足音……。

あ、あ、あ、あ、あ、ああ。

う、あ、あ、は、はじ、め、まして。姫神、です。はじ、は、はじめ――

うあ……あ、こ、こちら、こそ。……うあ、うああッ。

あ、は、は、はい。お、おち、おちつ、おちつかなきや、です、ね、はい。  
はな、鼻血、出そう、で、すみませ、顔、やっぱり、見れ……。

……え？ あ、あ……。

……好き……。

……好き。好き好き好き好き……！！

大好き……。

会いたかった……。話したい事……たくさん、たくさんあるんだ……。

……え、あッ、は、はい、そうですねッ、い、行きましょうか……。

最初は、その、どうします？ えと、あの、お墓参りとかどうです？

それとも、夢の島、いきます？ ダストシュートしてくれますか……？

あ、ああ、ちが、違いますよね、ハハ、あう、ああ……。

ふえ、……は、はいっ！ チョコケーキ……食べたいです。貴方と一緒に。

……ありがとうございます。こんな僕と、一緒に……、

僕を引っ張ってくれて……。

……、……手、握っていい……？ ……うん♪

あ、……これが、貴方の……、……まるで本物みたい……って本物でした。

あはは。……、……貴方の手、一度握ったらもう、一生離せなさそう……。

……僕、もう……貴方がいないと生きていけない……♪

## 9. 後書

「とにかく早く死にたかった。

それが僕の望みだった。

僕が人生で見てきたものは、理不尽、冷たい視線、罵倒、そんな、

マイナスなものばかり。

ああ、僕って、生きる事が許されないひとなんだ。

だって、僕を襲ってくる様々なものは、幸せそうに笑ってるから。

下世話で悪質で、とてもじゃないけど笑えない笑い話で盛り上がって。

そういうひとたちが強いと思われるのが、この世界なんだ。

だから僕は、それになれなかった僕は、生きる価値がない。

諦めてた。

でも僕、どうやら間違ってたみたいだね。

太陽はいつもあそこにあって、当然、建物があれば日陰が出来て。

僕はそこで……じつと、ぼつんと座って見てただけ。

少し、少しだけ前に歩けば、光を浴びる事が出来たんだ。

でも、一人じゃ無理だった。

光へいざなってくれるひと、手をひいてくれるひと、

そのひとは、やさしく微笑む。僕の話聴いてくれる。

とっても素敵で、愛しくて、大好きで、……ちよっただけ意地悪な、

かけがえのない存在だ。

僕は今日、そのひとに会った。

それは、ひとというより……太陽そのものだった。

眩しくて顔が見えなくて、でも確かにそこにいて、僕を見てくれて。

たくさんの言葉をもらった。温もりを、好きを、たくさん……。

普段から、ひとと対面した時に言葉に詰まってしまう僕だけど。

今までにないくらい、詰まり方をして……。

思わず、心の深い深いところにある、たった一言の感情が……、

飛び出した。

好き。

……彼はこう言った。

好き。」

……ふう。勢いで日記なんて書き始めちゃったけど、

意外とたくさん書けるものなんだなあ……。

でもこれ……見られたら来世まで引きずる恥ずかしさだ……。

うう、どうしよ。さすがにこの後の事は……書けないよね……。

だって、あのひとと会ってから……最後は……、……。

うわああああ死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ死ぬッ!!

長さに丁度いいしこれで終わりッ。ああもう、暑くなってきた。  
ていうかもう寝よう。寝る寝る寝る寝る寝る寝る寝るね。

……はあ。……かれびっぴ……かつこよかったなあ……。

やさしかったなあ……好きすぎて……ほんと、やばかった……。

うう……、……すう……きい……。

……あり、がと……、……。

(終)